

下紺屋町の歴史③ 花園

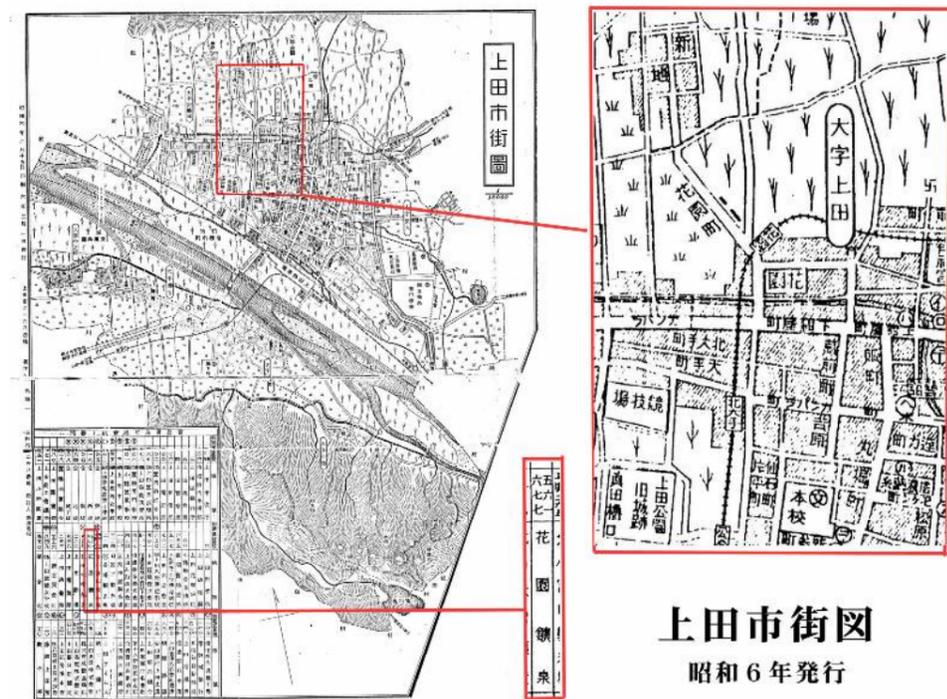
現在の下紺屋町に『花園』という地名はありません。しかし、町内の地区名として使われ事業所の名前にも使われており、市内においても「中央西」「下紺屋町」というよりも「花園」の方が場所がイメージできる方も多いと思います。

今回は『花園』について考察してみました。

上田市は真田昌幸により天正11年(西暦1583年)頃始まったの上田築城の城下町として形成され、出沢川が町の北部外濠としてあったので、その外に町が拡大することは容易ではありませんでした。

川の北側には西の入口の新町に向原寺が、その東方にはハ幡神社、海禅寺、呈蓮寺、大神宮、大輪寺と大きい社寺が並んでいるだけで一面水田であり畑であった。

大正9年になって新地に行く自動車道の必要からハ幡前から花園町が開け、下紺屋町にも通じ、その入口に花園鉱泉ができました。現在の国道18号線は昭和7年に従来の北国街道(西脇、鎌原、紺屋町、柳町の通り)が矢出沢川をこえて北側に新たに開通した。



上田遊廓(新地)

上田遊廓は明治11年に許可が下り、開業は明治15年である。そして昭和18年にその幕を閉じたが、この間65年にわたって公娼制度が維持されたのである。

明治政府が租税増収の方法として考えた政策が全国的な廓設置であり、上田町郊外の常盤城村新屋(新地と呼ばれた)につくられた。

廃藩置県により上田城の櫓二基が競売で遊廓に移転し金秋楼と萬豊楼として営業された。妓楼になったのは時代の変転を象徴する事象であった。ともあれ一般には公認の娯楽施設として歓迎され、地元の繁栄にも寄与したことは事実である。



花園駅(真田傍陽線)



廃線日の花園駅



花園駅跡

上田花園駅(うへだはなぞのえき)は、1927年(昭和2年)11月20日から1972年(昭和47年)2月19日まで設置されていた上田交通真田傍陽線の待合室があるだけの無人駅。真田傍陽線の廃線と同時に廃駅となった。

上田市市街地の北西部は、明治時代に「新地」と呼ばれた遊郭地帯として開け、真田傍陽線の前身である上田温泉電気軌道北東線が開業した昭和時代初期においても、田んぼの中に開けた遊郭地帯として知られていた。そこへ行く道の出発地点の脇に設置されたのがこの駅である。地図では単に「はなぞの」「花園駅」となっている。

戦後、国立療養所(のちに国立東信病院、現在は独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター)が設立され、さらに田んぼであった市街地北部が新興住宅地として開けると通勤・通学の足として、また病院へ通院するために利用する客が増え無人駅ながらにぎわっていたが、モータリゼーションに対する防波堤とはなりえなかった。



さよなら花電車

(共通) 電車乗車券		冊 3227	№ 045
(通用当日限り)		乗者	
駅名	上田	30	20
上田	三好町	1	2
上田	赤坂上	3	4
上田	北園	5	6
上田	北園	7	8
上田	北園	9	10
上田	北園	11	12
上田	北園	13	14
上田	北園	15	16
上田	北園	17	18
上田	北園	19	20
上田	北園	21	22
上田	北園	23	24
上田	北園	25	26
上田	北園	27	28
上田	北園	29	30
上田	北園	31	32
上田	北園	33	34
上田	北園	35	36
上田	北園	37	38
上田	北園	39	40
上田	北園	41	42
上田	北園	43	44
上田	北園	45	46
上田	北園	47	48
上田	北園	49	50
上田	北園	51	52
上田	北園	53	54
上田	北園	55	56
上田	北園	57	58
上田	北園	59	60
上田	北園	61	62
上田	北園	63	64
上田	北園	65	66
上田	北園	67	68
上田	北園	69	70
上田	北園	71	72
上田	北園	73	74
上田	北園	75	76
上田	北園	77	78
上田	北園	79	80
上田	北園	81	82
上田	北園	83	84
上田	北園	85	86
上田	北園	87	88
上田	北園	89	90
上田	北園	91	92
上田	北園	93	94
上田	北園	95	96
上田	北園	97	98
上田	北園	99	100

廃止日の車中販売切符